

コニカミルタ株式会社

2021 年（令和3年）3月期 第1四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2020 年 7 月 30 日（木） 17:30 ～ 18:30

方 式： テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績に関して】

Q. P.18 について、20 年度営業利益水準（C）を 3 桁億は出したいとの説明だったが、1Q の赤字幅から考えると 2Q も赤字になりそうだと推定され、その場合は下期に 4-500 億の利益を出さなければならず、達成するにはかなりハードルが高く見えるが、その辺りの考え方を確認させてください。

A. 5 月の決算説明会時には 20 年度営業利益水準（C）は 200 億を超えたあたりをターゲットにしている説明していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響額が追加で 100 億悪化すると見込んでおり、追加改善施策をもう一段入れて打ち消したいが、1Q も生じた為替影響や、キャッシュフローを優先するために連結での在庫を下げることで生産損益が悪化する部分もあると想定しています。そういったことも念頭に、20 年度営業利益水準（C）は 3 桁は確保したいということがご説明させていただいた趣旨になります。2Q の赤字幅をどれぐらいに抑えるかで下期のハードルの高さが変わりますが、2Q のトップラインから来る粗利を拡大させても、2Q は赤字が残ると見えています。これを極力 2 桁の真ん中辺りの赤字に抑えることを念頭に、年度では 3 桁の営業利益を確保しようという前提で経営に取り組んでいる状況です。

【事業に関して】

Q. この先 7 月実績や 8-9 月までどういったシナリオを描いているのでしょうか。主要な事業、オフィス、プロフェッショナルプリント、産業印刷、あとバイオヘルスケアについて方向感を教えてください。

A. 7 月のオフィス、プロフェッショナルプリント事業は 6 月より前年比での回復度合いは改善してきています。割合でいうと 7-8 月は前年比 80%より少し厳しく、9 月は前年比 80%を超えてくると見ています。産業印刷は顧客へのデモなども考えるともう少し回復するのに時間がかかると見ており、7-8 月は緩やかな回復となり、9 月に大きな回復を見込んでいます。

バイオヘルスケアは特に遺伝子検査が前年度 3 月のレベルまで戻ってきていますが、前年度 1-2 月のレベルに戻るかどうか、米国の行動制限と密接に関係しますので注視している状況です。ただし、遺伝子検査については健常者向けの CARE Program の契約が獲得でき始めており、需要が消失するものではないこと、創薬支援サービスのパイプラインも増加していることから、V 字回復できると見込んでいます。

Q. バイオヘルスケアの CARE for COVID について、企業向けに従業員の PCR 検査をしてマネージするというモデルだと理解していますが、検査数に対しての課金なのか、従業員数に対してマネジメントフィーなのかといったモデルなのでしょうか。また、大口契約が進行中とのことですが、どれぐらいの規模のビジネスになる見込みでしょうか。

A. ベースは検査数に対しての課金からスタートするというビジネスになります。州政府からの要請を受けて受託する形態と、民間企業との契約する形態とで進めており、許認可も含めて実行ステージに移行しているところです。売上の見通しは進行中の商談の進捗にもよりますが、CARE for COVID だけではなく P.16 の 3 つで 80 億円超を一つのゴールとして持ちながら受注活動に取り組んでいるという状況です。

Q. P.32 にノンハード売上の伸長率が記載されていますが、ハード売上の伸長率実績を教えてください。また、米国が厳しく欧州が良かったということですが、地域的な差が出た理由をどう分析していますか。

A. ハード売上の減収幅としてはほぼノンハード売上と同程度です。地域的な差につきましては、欧州でロックダウン解除の早かった国があった一方、米国は南部や西部での再拡大などにより影響が長期化していることがあります。顧客面では、当社の主要な顧客層は中堅中小企業ですが、欧州では新型コロナウイルス感染症の流行以前に受注済であった官公庁向けなどの大口案件のデリバリーや検収が進み売上計上できたため、相対的に米国よりも欧州が良かったという特徴がありました。

以上